

裏磐梯地域におけるエコツーリズムの現状と問題点に関する研究 —ガイドを中心とするエコツーリズム関係者の意識調査に基づいて—

三部和哉・川崎興太（福島大学・共生システム理工学類）

要 旨

本研究は、裏磐梯地域におけるエコツーリズムの現状と問題点について、エコツーリズムの必須の構成要素とされているガイドに対するアンケート調査のほか、関係行政機関や関係団体に対するインタビュー調査を通じて明らかにすることを目的とするものである。

本研究を通じて、裏磐梯におけるエコツーリズムは、本格的な取り組みが始まってから5年以上が経過した現在、情報発信や関係主体の連携など、さまざまな問題点を抱えていることが明らかになった。こうした現状を踏まえ、本研究では、裏磐梯のエコツーリズムを普及・活性化させるためには、ガイド、関係行政機関、関係団体のほか、住民や来訪者も含めた関係者がこれまでの成果と問題点について認識を共有化し、裏磐梯エコツーリズム協会に対する行政の支援策なども検討しながら、今後のエコツーリズムのあり方を協議する場を設ける必要があることを指摘している。

I. 研究の背景と目的

本研究の対象地である裏磐梯地域は、磐梯山の北麓に広がっている福島県を代表する自然景勝地である。観光客入込数は、バブル経済期をピークとして減少傾向にあるものの、今なお県内で2番目に多い観光地であり、近年では、エコツーリズムという新たな取り組みが行われている。

エコツーリズムとは、団体による物見遊山を中心とするマストツーリズムの時代が終焉したと言われる我が国にあって、ニューツーリズムの1つとして注目されている旅行のあり方である。平成19年に成立したエコツーリズム推進法においては、エコツーリズムとは、「観光旅行者が、自然観光資源について知識を有する者から案内又は助言を受け、当該自然観光資源の保護に配慮しつつ当該自然観光資源と触れ合い、これに関する知識及び理解を深めるための活動をいう」と定義されており、自然観光資源についての知識を有する者、つまり現地で案内又は助言を行うガイドを必須の構成要素とするものである。

本研究は、裏磐梯地域におけるエコツーリズム

の現状と問題点について、エコツーリズムの必須の構成要素とされているガイドに対するアンケート調査のほか、関係行政機関や関係団体に対するインタビュー調査を通じて明らかにすることを目的とするものである。

既往研究としては、例えば「屋久島におけるエコツアーガイドの実態と課題」が挙げられる（松本ら、2004）。この研究では、エコツアーガイドに対する聞き取り調査を通じてガイドの意識やガイドが抱える課題が分析されているが、ガイド以外のエコツアーにかかわる関係行政機関や関係団体の現状や課題には触れられていない。本研究は、関係行政機関や関係団体を含めた多様な主体を対象として、エコツーリズムにかかわる現状と問題点を明らかにするという点で独自性を有するものであり、また、これまで裏磐梯地域におけるエコツーリズムをテーマに扱った研究は見当たらないという点で有用なものだと考えられる。

II. 裏磐梯地域におけるエコツーリズムの歴史

裏磐梯の観光地としての歴史は、川崎（2012）によって整理されており、裏磐梯におけるエコツーリズムは、バブル経済の崩壊後における取り組みであることが明らかにされている。

具体的に、最初にエコツーリズムの取り組みが始められたのは、平成12年7月7日～9日に開催された「桧原湖国際トレッキングフェスタ」に併せて開催された「エコツーリズム大会」によってである。その後、平成13年には9月14日～16日の3日間で国際エコツーリズム大会（桧原湖国際トレッキングフェスタも同時開催）が開催され、エコツーリズム活動が活発化していったと言われている。

平成15年度からは、環境省が主体となって「裏磐梯地区環境保全型自然体験活動（エコツーリズム）推進事業」が行われた。この事業は、平成16年度の半ばから、環境省・福島県・北塩原村を主体とする「エコツーリズム推進モデル事業」として引き継がれ、平成17年度末に「平成17年度磐梯朝日国立公園裏磐梯地区環境保全型自然体験活動（エコツーリズム）推進事業業務報告書」が策定された。

同報告書においては、情報発信機能、プロモーション機能、ネットワーク・リレーション機能、カレッジ運営機能、調査・研究機能などを備え、多数のエコツーリズム関連事業を推進する組織を設立することが必要であるとされた。これを受けて、平成19年6月には、そのエコツーリズム推進組織である「裏磐梯エコツーリズム協会」が設立され、以来、裏磐梯エコツーリズムカレッジ（ばんだいの宝発見講座）などが実施されている。

そして、平成19年11月には、モデル事業の終了後にエコツーリズムカレッジや住民参加型モニタリングなどの取り組みが評価されて、第3回エコツーリズム大賞の特別賞を受賞するに至っている。

III. 磐梯地域のエコツーリズムの現状と問題点

1. エコツーリズムのガイド又はガイド団体に対するアンケート調査

(1) アンケート調査の概要

裏磐梯地域において、ガイド活動を行っている主体は、大きくガイド団体と個人ガイドに分けられる。ガイド団体については、裏磐梯エコツーリズム協会や裏磐梯観光協会に対するインタビュー調査の結果、裏磐梯エコツーリズム協会に所属する6団体が主たる活動主体であることが明らかになったので、その6団体であるアウトドアスポーツクラブ バックス、いなわしろ伝保人会、裏磐梯エコガイドの会、Natural Biz、もくもく自然塾、わかば自然楽校を対象として実施した。個人ガイドについては、磐梯山ジオパーク協議会に対するインタビュー調査の結果、ベーシックジオガイドとして登録されている20名が主たるメンバーであることが明らかになったので、その20名を対象として実施した。

ガイド団体に対しては、2012年11月27日にアンケート調査票を郵送し、同年12月10日までに5団体から回収することができた（回収率83%）。個人ガイドであるベーシックジオガイドに対しては、2012年11月29日にベーシックジオガイドの登録機関である磐梯山ジオパーク協議会を通じてアンケート調査票を配布し、同年12月14日までに9名から回収することができた（回収率45%）。

(2) アンケート調査の結果

① ガイド団体に対するアンケート調査の結果

以下に、ガイド団体に対するアンケート調査の結果を示す（表1～表8）。

表1 ガイド団体の属性

	運営形態	組織人数	
		登録ガイド 総数	常勤者 数
アウトドアスポーツクラブ ボックス	民間会社	6	4
いなわしろ伝保人会	任意団体	21	0
裏磐梯エコガイドの会	任意団体	11	0
もくもく自然塾	任意団体	7	5
わかば自然学校	NPO	20	0

表2 エコツアーの参加者の主たる属性

<震災前>

	性別	年齢	来訪元
アウトドアスポーツ クラブ ボックス	男	30代	福島・ 東京
いなわしろ伝保人会	—	10代	茨城
裏磐梯エコガイドの 会	—	10代	東京
もくもく自然塾	男	30代	福島・ 茨城
わかば自然楽校	男	10代	福島

<震災後>

	性別	年齢	来訪元
アウトドアスポーツ クラブ ボックス	男	30代	福島・ 東京
いなわしろ伝保人会	—	60代	福島
裏磐梯エコガイドの 会	—	50～60 代	関東地 方
もくもく自然塾	男	50代	福島・ 茨城
わかば自然楽校	男	60代	福島

表3 裏磐梯地域のエコツーリズムの問題
(複数回答)

	回答 者数	割合 (%)
1. 観光客のエコツーリズム (ガ イド活動) に対する認知不足	5	100
2. ガイド団体 (個人) と関係組 織との連携不足	3	60
3. ガイド団体 (個人) と旅行業 者との連携不足	2	40
4. ガイド団体 (個人) とマスコ ミとの連携不足	1	20

5. 行政の政策面での不備・不足	3	60
6. 行政の支援の不足	2	40
7. 行政の観光客受け入れ体制の 不備	2	40
8. 裏磐梯地域のエコツーリズム (ガイド活動) に対するビジョ ン・指針の欠如	1	20
9. その他の問題点	2	40
10. 問題を感じてはいない	0	0

※その他の問題点として回答されたもの

- ・(ガイド活動が) 生活の糧として未だなり得ていない
- ・ガイドは有料であるということの周知が必要 (全国的にボランティア (無料) でガイド活動を行っている人が多い)

表4 表3の問題を改善するために必要なこと
(複数回答)

	回答 者数	割合 (%)
1. 行政の政策的支援	2	40
2. 情報発信 (宣伝)	4	80
3. 企業などからの助成金 (CSR など)	0	0
4. 関係団体との意見交換	2	40
5. 裏磐梯地域の新たな魅力の発 見又は開発	1	20
6. ガイド団体 (個人) 同士の連 携・意志の統一	1	20
7. エコツーリズムに対する独自 の基準の作成	0	0
8. その他必要なこと	0	0
9. 特に必要だと思っていること はない	0	0

表5 ガイド団体として抱えている問題
(複数回答)

	回答 者数	割合 (%)
1. ツアー参加者の減少	4	80
2. 情報発信不足 (観光客のエコ ツーリズムに対する認知不 足)	4	80
3. 運営資金不足	1	20
4. ガイドの高齢化	2	40
5. 人員不足	1	20
6. ガイドの質の確保	2	40
7. その他の問題点	0	0
8. 問題を感じてはいない	0	0

表6 表5の問題を改善するために必要なこと（複数回答）

	回答者数	割合 (%)
1. 行政からの金銭的支援	2	40
2. 行政からの情報提供	1	20
3. 行政からの人的支援	0	0
4. 行政の政策的支援	0	0
5. 情報発信	3	60
6. 企業などからの助成金（CSRなど）	1	20
7. 関係団体との意見交換	1	20
8. ガイド団体（個人）同士の連携・意志の統一	0	0
9. エコツアーリズムに対する独自の基準の作成	0	0
10. その他必要なこと	1	20
11. 特に必要だと思っていない	0	0

※その他必要なこととして回答されたもの

- ・新人の育成
- ・（観光の状況が）震災前のレベルに戻るまでの支援

表7 裏磐梯エコツアーリズム協会に期待すること（複数回答）

	回答者数	割合 (%)
1. エコツアー（ガイドツアー）に関する知識・経験の提供	0	0
2. 裏磐梯地域で行われているエコツアーリズム（ガイド活動）全体の取りまとめ	0	0
3. 裏磐梯地域のエコツアーリズム（ガイド活動）のビジョンの作成・提示	1	20
4. ガイド団体（個人）と行政などの関係組織との橋渡し	2	40
5. 裏磐梯地域で行われているエコツアーリズム（ガイド活動）全体の総合的な情報発信	3	60
6. その他期待すること	0	0
7. 特に期待はしていない	2	40

表8 裏磐梯地域におけるエコツアーリズムを普及・活性化させるために必要なこと（複数回答）

	回答者数	割合 (%)
1. 裏磐梯地域全体のエコツアーリズム（ガイド活動）に対するビジョンの明確化	1	20
2. ガイド団体（個人）と行政などの関係組織との連携	3	60
3. ガイド団体（個人）同士のエ	0	0

コツアーリズム（ガイド活動）に対する認識（意識）の統一		
4. 裏磐梯地域の新たなブランドイメージの確立	3	60
5. 放射線に関する情報発信	1	20
6. 裏磐梯地域のエコツアーリズム（ガイド活動）に関する総合的な情報発信	3	60
7. その他重要なこと	1	20

※その他重要なこととして回答されたもの

- ・エコツアーリズムの活動自体が一部の人のものであって、村内一般の人に浸透していない
- ・新たな「ジオパーク」も含め、一般の人にもわかりやすく広める必要がある

②個人ガイドに対するアンケート調査の結果

以下に、個人ガイドであるベーシックジオガイドに対するアンケート調査の結果を示す（表9～表16）。

表9 個人ガイドの属性

所属団体（経営ペンション）	性別	年齢	職業
裏磐梯エコツアーリズム協会Aさん	女	—	—
いなわしろ伝保人会Bさん	男	65	ガイド業
いなわしろ伝保人会Cさん	女	40	登山ガイド・会社役員
いなわしろ伝保人会Dさん	男	69	無職
いなわしろ伝保人会Eさん	男	69	無職
磐梯山ジオパークFさん	男	64	自営業
Natural Biz Gさん	男	42	ガイド業
いなわしろ伝保人会Hさん	女	48	宿泊業
裏磐梯エコガイドの会 Iさん	男	68	無職

表 10 エコツアーの参加者の主たる属性

<震災前>

	性別	年齢	来訪元
裏磐梯エコツアー リズム協会Aさん	女	40～ 60代	福島・東 京・茨城
いなわしろ伝保人 会Bさん	同程 度	10代 未満	茨城
いなわしろ伝保人 会Cさん	—	10代	宮城・茨城
いなわしろ伝保人 会Dさん	—	10代	関東地方
いなわしろ伝保人 会Eさん	—	10代	宮城
磐梯山ジオパーク Fさん	女	60代	福島・東京
Natural Biz Gさ ん	女	60代	関東地方
いなわしろ伝保人 会 Hさん	同程 度	10代	茨城
裏磐梯エコガイド の会 Iさん	女	60代	宮城・東京

<震災後>

	性別	年齢	来訪元
裏磐梯エコツアー リズム協会Aさん	女	40～ 60代	福島・東京
いなわしろ伝保人 会Bさん	女	60代	福島
いなわしろ伝保人 会Cさん	女	50代	福島・埼玉
いなわしろ伝保人 会Dさん	—	—	福島
いなわしろ伝保人 会Eさん	—	10代	福島
磐梯山ジオパーク Fさん	女	60代	福島・東京
Natural Biz Gさ ん	女	60代	関東地方
いなわしろ伝保人 会 Hさん	同程 度	10代	福島
裏磐梯エコガイド の会 Iさん	女	60代	福島

表 11 裏磐梯地域のエコツーリズムの問題
(複数回答)

	回答 者数	割合 (%)
1. 観光客のエコツーリズム(ガ イド活動)に対する認知不 足	4	44
2. ガイドと関係組織との連携 不足	2	22

3. ガイドと旅行業者との連携 不足	5	56
4. ガイドとマスコミとの連携 不足	0	0
5. 行政の政策面での不備・不足	3	33
6. 行政の支援の不足	4	44
7. 行政の観光客受け入れ体制 の不備	3	33
8. 裏磐梯地域のエコツーリ ズム(ガイド活動)に対する ビジョン・指針の欠如	2	22
9. その他の問題点	4	44
10. 問題を感じてはいない	1	11

※その他の問題点として回答されたもの

- ・特に学校の教育旅行の面で、風評被害の影響が大きい
- ・ガイド団体・関係組織・行政の情報発信力不足
- ・ガイドの仕事だけでは、生計を立てられない(若い人がガイドになるのは難しい)
- ・ガイドの仕事の安定と収入が増えなければ、人材の確保は難しい
- ・特に五色沼一带の特別保護区に対するペットの持ち込みを規制するべき

表 12 表 11の問題を改善するために必要な
こと(複数回答)

	回答 者数	割合 (%)
1. 行政の政策的支援	5	56
2. 情報発信(宣伝)	5	56
3. 企業などからの助成金(CSR など)	1	11
4. 関係団体との意見交換	4	44
5. 裏磐梯地域の新たな魅力の発 見又は開発	4	44
6. ガイド同士の連携・意志の統 一	4	44
7. エコツーリズムに対する独自 の基準の作成	1	11
8. その他必要なこと	4	44
9. 特に必要だと思っていること はない	0	0

※その他必要なこととして回答されたもの

- ・企業などの助成金は保全活動については申請しやすいが、国立公園内ということもあって単純に「植樹活動」などをするわけにはいかない点が難しい(理解を得にくい)
- ・「裏磐梯に多く集客」し、その中から「ガイドツアー参加比率を高める」という2点の取り組みが必要
- ・放射線の問題(観光客に安全であるという理解をしてもらおう)
- ・(トレッキング)コースの案内・説明看板などが不足

**表 13 個人ガイドとして抱えている問題
(複数回答)**

	回答者数	割合 (%)
1. ツアー参加者の減少	7	78
2. 情報発信不足 (観光客のエコツアーリズムに対する認知不足)	3	33
3. 運営資金不足	1	11
4. ガイドの高齢化	6	67
5. 人員不足	4	44
6. ガイドの質の確保	3	33
7. その他の問題点	2	22
8. 問題を感じてはいない	0	0

※その他必要なこととして回答されたもの
 ・風評被害をどう乗り切っていくかということ
 ・震災以降の大幅なお客様の減少で、収入が見込めない

表 14 表 13 の問題を改善するために必要なこと (複数回答)

	回答者数	割合 (%)
1. 行政からの金銭的支援	2	22
2. 行政からの情報提供	2	22
3. 行政からの人的支援	0	0
4. 行政の政策的支援	5	56
5. 情報発信	4	44
6. 企業などからの助成金 (CSR など)	1	11
7. 関係団体との意見交換	3	33
8. ガイド同士の連携・意志の統一	3	33
9. エコツアーリズムに対する独自の基準の作成	2	22
10. その他必要なこと	4	44
11. 特に必要だと思っていない	0	0

※その他必要なこととして回答されたもの
 ・行政が関わることで解決できることもある
 ・モニターツアーを頻繁に行って、風評被害を逆手にとった活動をする
 ・(すぐには実現はできないが) 西欧並みにガイドツアーに対する価値の向上が必要 (ボランティアガイドは本来のガイドの立場を危うくするかもしれない)
 ・公共施設 (特にトイレ) の管理が不十分 (これだけで二度と来たくないと考えてる子供も多い)

表 15 裏磐梯エコツアーリズム協会に期待すること (複数回答)

	回答者数	割合 (%)
1. エコツアー (ガイドツアー) に関する知識・経験の提供	3	33
2. 裏磐梯地域で行われているエコツアーリズム (ガイド活動) 全体の取りまとめ	2	22
3. 裏磐梯地域のエコツアーリズム (ガイド活動) のビジョンの作成・提示	2	22
4. ガイドと行政などの関係組織との橋渡し	5	56
5. 裏磐梯地域で行われているエコツアーリズム (ガイド活動) 全体の総合的な情報発信	4	44
6. その他期待すること	2	22
7. 特に期待はしていない	0	0

※その他期待することとして回答されたもの
 ・自立した運営をしていくこと

表 16 裏磐梯地域におけるエコツアーリズムを普及・活性化させるために必要なこと (複数回答)

	回答者数	割合 (%)
1. 裏磐梯地域全体のエコツアーリズム (ガイド活動) に対するビジョンの明確化	2	22
2. ガイドと行政などの関係組織との連携	2	22
3. ガイド同士のエコツアーリズム (ガイド活動) に対する認識 (意識) の統一	5	56
4. 裏磐梯地域の新たなブランドイメージの確立	5	56
5. 放射線に関する情報発信	5	56
6. 裏磐梯地域のエコツアーリズム (ガイド活動) に関する総合的な情報発信	5	56
7. その他重要なこと	4	44

※その他重要なこととして回答されたもの
 ・エコツアーリズム推進法を利用し、行政が中心となって推進協議会を立ち上げ「全体構想」を提出すること (その後その構想に沿った活動を、推進協議会に参加の各ガイド団体が連携し行っていく)
 ・表磐梯と裏磐梯を一体化した新しい魅力の創出
 ・滞在型・体験型の商品提供
 ・旅行会社との連携
 ・クチコミが広がる様な工夫
 ・裏磐梯の観光資源開発と商品化
 ・ガイドの質の向上

(3) 小括

裏磐梯地域のエコツーリズムの問題としては、ガイド団体についても個人ガイドについても、エコツーリズムの認知不足、ガイドと関係主体の連携不足、行政の各種支援の不備・不足が多くなっている。改善策としては、ガイド団体については情報発信が多く、個人ガイドについては情報発信とあわせて、行政の各種支援、関係団体との意見交換やガイド同士の連携などが多くなっている。

ガイド団体自身または個人ガイドが抱える問題としては、ガイド団体については、ツアー参加者の減少と情報発信不足が多く、個人ガイドについては、ツアー参加者の減少とガイドの高齢化が多くなっている。改善策としては、両者ともに、行政の各種支援と情報発信が多くなっているが、個人ガイドについては、関係団体との意見交換やガイド同士の連携も多くなっている。

裏磐梯エコツーリズム協会に対する期待としては、ガイド団体についても個人ガイドについても、ガイドと関係組織との橋渡し、エコツーリズムの総合的な情報発信が多くなっている。

エコツーリズムの普及・活性化策としては、ガイド団体については、ガイドと関連組織との連携、新たなブランドイメージの確立、エコツーリズムに関する総合的な情報発信が多くなっており、個人ガイドについては、エコツーリズムに対する認識の統一、新たなブランドイメージの確立、放射線に関する情報発信、エコツーリズムに関する総合的な情報発信が多くなっている。

2. エコツーリズムに関わる行政機関・各種団体に対するインタビュー調査

(1) インタビュー調査の概要

裏磐梯地域におけるエコツーリズムの関係行政機関や関係団体として、前述した裏磐梯エコツーリズム協会、裏磐梯地域に指定されている磐梯朝日国立公園を管理する環境省裏磐梯自然保護

官、裏磐梯地域の主たる基礎自治体として観光行政を担う北塩原村商工観光課、裏磐梯地域における観光の振興のために活動を行っている裏磐梯観光協会、磐梯山ジオパークとして認定された2町1村にわたる広域的な範囲の振興を担っている磐梯山ジオパーク協議会にインタビュー調査を行った。

実施日と方法は以下の通りである。

表 17 インタビュー調査の実施日と方法

	実施日	方法
裏磐梯エコツーリズム協会	2012年8月10日 2012年11月15日 2012年12月3日	電話面会
環境省裏磐梯自然保護官	2012年12月10日	メール
北塩原村商工観光課	2012年12月3日	電話
裏磐梯観光協会	2012年12月3日	電話
磐梯山ジオパーク協議会	2012年12月3日	電話

(2) インタビュー調査の結果

表 18 に、インタビュー調査の結果を示す。

(3) 小括

インタビュー調査の結果、関係行政機関や関係団体のエコツーリズムに関する問題点や展望については、必ずしも認識が共通しているわけではないことが明らかになった。

このため、意見の例示になるが、エコツーリズムの問題点については、裏磐梯エコツーリズム協会は、住民のエコツーリズムに対する理解不足、関係団体の話し合う場の欠如などを指摘しており、環境省裏磐梯自然保護官は、裏磐梯エコツーリズム協会が思うように活動できていないこと、資源・人材・組織がうまく機能していないことを指摘している。

エコツーリズムの展望については、例えば、裏磐梯エコツーリズム協会は、情報発信の明確化、運営資金の確保などが必要であることを指摘し

表 18 インタビュー調査の結果

	裏磐梯地域における エコツーリズムに関する活 動内容	裏磐梯地域における エコツーリズムの問題点	裏磐梯地域における エコツーリズムの展望
裏磐梯 エコツ ーリズ ム協会	<ul style="list-style-type: none"> ・「もっとアクションプラン13」, 「インタープリター養成」といった活動を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災による観光客（特に教育旅行や一般の団体旅行）の減少 ・地元住民のエコツーリズムに対する理解の不足 ・ガイドの高齢化 ・ガイドレス観光の定着 ・裏磐梯地域の観光について, 関係団体が話し合う場がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドツアーを定着させ, ガイドの新規雇用を促進する ・裏磐梯地域の情報発信の明確化 ・任意団体からNPO化させる ・運営資金を確保する
環境省 裏磐梯 自然保 護官	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省としては, 今現在裏磐梯地域に対する活動は行っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・裏磐梯エコツーリズム協会が思うように活動できていない ・エコツーリズムを行う資源・人材・組織が揃っているが, それらがうまく機能していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・裏磐梯エコツーリズム協会へ, 行政から支援を行い活性化を図る ・行政からの支援について考えていかなければいけない
北塩原 村商工 観光課	<ul style="list-style-type: none"> ・裏磐梯エコツーフエスタを開催 ・関係団体の広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客に対して, 自然への理解を得ること ・外国人観光客に対しての解説（言語的問題） 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズムに関しては地元主導で推進してもらおう（行政はあくまでサポート） ・ジオパークについても絡めて観光に結びつけたい
裏磐梯 観光協 会	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に4つのイベント（「ウチダザリガニ釣り大会」, 「裏磐梯のホタルの観察会」, 「裏磐梯に咲く花調べ」, 「トレジャーハンター」）を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズムに関する問題としては特にはない ・観光協会自身としては, 観光団体との理解を深める必要があると感じている 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客の年齢としてお年寄りが多いので, 家族（若い世代）で楽しめる場になりたい
磐梯山 ジオパ ーク協 議会	<ul style="list-style-type: none"> ・主に地元の小中学校へのジオパーク出前講座の開催 ・観光客に対するジオツアー 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来生物（ウチダザリガニ, オオハンゴンソウ）が入り込むことによる自然（生態系）の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・裏磐梯地域にとどまらず, ジオパーク全域において, 広域的なジオパーク（エコツーリズム）活動を展開する

ており, 環境省裏磐梯自然保護官は, 裏磐梯エコツーリズム協会への行政支援による活性化などが必要であることを指摘している。

IV. 結論

裏磐梯では, エコツーリズムの取り組みが始まってから10年以上, 本格的に始まってから5年以上の歳月が経過している。この間, 第3回エコツーリズム大賞の特別賞を受賞するまでに至っているが, 本研究で実施したガイドに対するアンケート調査によって, 情報発信や関係主体の連携など, さまざまな問題点を抱えていることが明らかになった。

ここで重要なことは, これらの問題点の多くは, 実は裏磐梯エコツーリズム協会が設立される際に, これが担うべき機能として期待されたものであるということである。言い換えるならば, これらの問題点の多くは, 環境省裏磐梯自然保護官が言い当てているように, エコツーリズムを本格的に開始するにあたっての推進母体とされた同協会のある種の機能不全を示しているものである。

もとより, これは運営資金を十分に確保できていない同協会だけの問題ではないと考えられる。むしろ, 同協会へのインタビュー調査を実施した限りでは, 少人数のコアメンバーがそのような状況の中でもエコツーリズムの普及に向けて献身的な努力を持続してきているように思われた。つ

まり、同協会の設立趣旨から現状を照射した場合、確かに担い切れていないものが多いのは事実であるが、現行の環境の下では、少なくとも同協会自身によって問題点を抜本的に解決することは難しいと考えられる。

こうしたことに加えて、インタビュー調査から明らかになったように、関係行政機関や関係団体のエコツーリズムに関する問題点や展望については、必ずしも認識が共通しているわけではないことを踏まえると、今後、裏磐梯のエコツーリズムを普及・活性化させるためには、ガイド、関係行政機関、関係団体のほか、住民や来訪者も含めた関係者がこれまでの成果と問題点について認識を共有化し、裏磐梯エコツーリズム協会に対する行政の支援策なども検討しながら、今後のエコツーリズムのあり方を協議する場を設ける必要があると考えられる。

謝辞

本研究を進めるに当たりまして、裏磐梯地域におけるエコツーリズムに関わっておられる行政や各組織、ガイド団体、ベーシックジオガイドの方々には大変お世話になりました。その中でも特に、ベーシックジオガイドの方へのアンケート調査票の配布並びに回収を行って下さいました磐梯山ジオパーク協議会の方々や、幾度にもわたるインタビュー調査にご協力して頂きました裏磐梯エコツーリズム協会の方々の親切な対応無しには、本研究を遂行することはできなかつたと思われます。

そのようなお世話になりましたすべての方々に対しまして、この場を借りて心から厚く御礼を申し上げます。

参考文献

裏磐梯エコツーリズム協会

<http://www.eco-urabandai.com/>

裏磐梯観光協会

<http://www.urabandai-inf.com/>

NPO 法人日本エコツーリズム協会 (2006) 平成17年度磐梯朝日国立公園裏磐梯地区環境保全型自然体験活動(エコツーリズム)推進事業業務報告書。

川崎興太(2012) 高原リゾート観光地・裏磐梯の歴史と現状 —裏磐梯に関する研究(その1)—, 日本建築学会東北支部研究報告集(計画系), 第75号, 51-54.

環境省自然保護局北関東地区自然保護事務所 (2004) 磐梯朝日国立公園 磐梯吾妻・猪苗代地域 管理計画書。

東北地方環境事務所 (2011) 磐梯朝日国立公園 指定60周年記念誌 磐梯朝日のあゆみ。

松本富美子・田代正一・大西緝(2004) 屋久島におけるエコツアーガイドの実態と課題, 鹿大農学術報告, 第54号, 15-29.